

1. 活動報告（事務局 記）

- 5月25日（土）会員13名及び観察隊1家族（溝邊家3名）が参加し、稲作準備として、観察路の草刈り、駐車場の草刈り、観察路内の除去草・落ち葉の撤去および焼却、湿地帯観察路の整備（ベニヤ板の設置）の作業を実施しました。猛暑の中、参加された会員の皆様お疲れさまでした。
- 5月30日（木）・6月3日（月）中国電力山口電力所の方が、ボランティア活動に來られました。30日はビオトープそばの竹林を間伐され、3日に伐採した竹の片づけをされました。
- 6月5日（水）午後 田んぼの代掻きを済ませました。原田会長と西村会員で行いました。
- 6月8日（土）JA育苗センターで原田会長が苗を受け取り、ビオトープへ運搬されました。ブルーシートを東屋西に設置し、ポータブルのテントも3個設置し、祭壇を設置し、ふれあいセンターより長机5個・パイプいす10個借用し運搬しました。
- 6月9日（日）稲作体験で田植えを行いました。天気も良く、子供たちも少し慣れてきたのか、スムーズに終わることが出来ました。田植えの後は、膝癒しとして、おむすびと豚汁を食べてもらいました。参加者は、親子自然観察隊（子8名、親9名）、二俣瀬子ども会（子18名、親12名）、二俣瀬小学校（校長、教頭、他2名）、ふれあいセンター2名（岡崎北部支援・原田学芸員）、山大学生1名、会員17名でした。
- 6月13日（木）二俣瀬小学校3・4年生14名と先生方4名の来訪があり、9時50分～11時15分の間御案内いたしました。講師として昆虫類特にトンボや蝶には菅会員、植物・水棲動物には前田会員が、観察時の安全に原田会長がそれぞれ対応しました。お互い力説されたことは外来種種類と淘汰や持ち込み禁止について、また在来種生物の保護活動の説明とビオトープならでの特殊な植物についての説明に児童たちに共感を与えて頂きました。
- 6月15日（土）会員10名が参加し、水路（草原地帯）の除草の作業を実施しました。なお、作業開始前の9時～10時半まで、以下の項目について説明がありました。
 - ① 須賀河内川でのヨシの成長実験（関根事務局長より）
 - ② 須賀河内川での実験堰の設置（関根事務局長より）
 - ③ 蛭を活用した地域活性（原田会長より）
 - ④ 水車改修に伴う費用（原田会長より）

—6月22日（土）会員17名が参加し、草刈り（観察路の周辺）と水車の解体（工藤会員が作成した作業手順をもとに実施）の作業を行いました。なお体験者として、山大医学部の学生1名（男性）が参加されました。また作業実施前に、臨時総会を開催しました。総会では、水車修復費用についての案件を協議し、承認されました。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎来訪者

予定はありません。

◎行事

- 7月7日（日）エコアップ（ため池イグサ・湿地帯スゲ間引き）
- 7月13日（土）維持活動（観察路・駐車場の草刈り）、稲作体験（親子自然観察隊）
- 7月27日（土）維持活動（草刈り・清瀬峡整備）

3. 来訪者の声

今回はありません。

4. 会員の声 「タガメ」（藤井 佑治 記）

昨年5月、「ビオトープ二俣瀬」の会員として皆様の仲間に加えていただき一年余りが過ぎた。本会は自然環境の大切さと二俣瀬の良さを知ってもらう機会にしようと設立され、来年で20周年を迎えると言う。

過日、朝日新聞山口版に周南市のビオトープの記事が載っていた。このビオトープは毎年秋に飛来する鶴の餌のドジョウを休耕田で育てようとしたところ「水中のギャング」の異名を持つタガメが生息していることを発見し、地元の小学校の児童と共にタガメの保護活動に取り組んでいるというものだった。かつてはどこの水田にもいたが、農薬や河川の開発の影響で次第に姿を消し、レッドリストでも絶滅危惧Ⅱ類に指定されているようだ。

そのタガメがもしかしたら「里山ビオトープ二俣瀬」にも生息しているのではないかな？今の時期夕方にはホタル乱舞も見られる。タガメやゲンゴロウなど多くの水棲生物が観察できる自然豊かな環境を会員・自然観察隊の皆様と共に力を合わせ守り続けたい。

5. 稲作体験イベント 「田植え」



初めに説明



田植えの開始



田植えを終えて全員でバンザイ



膝癒しでおむすびと豚汁

親子自然観察隊の感想

★三谷悠斗

初めて田植えをしました。田んぼの中にもいろいろな虫がいて、とても楽しかったです。

★三谷(母)

田植えは初めての経験でしたが、とても楽しく取り組むことができました。幼い頃の懐かしい思い出がよみがえったように思います。田植えを通して、たくさんのことを教わりとても貴重な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

6. ビオトープ関連：「山口県の昆虫たち」 (管 哲郎 記)

(40) クマバチ *Xylocopa appendiculata* (細腰亜目 有剣類 ミツバチ科)

春から秋にかけて出現し、空中をホバリングしブンブン飛翔する羽音が大きく、思わず首をすくめてしまいますが、攻撃性は弱く人を刺すことは殆どありません。

北海道～九州地方まで日本全国に分布し、ミツバチ科に属しますので主に花の蜜を集めて生活しています。体色は黒、胸は鮮黄色の毛でおおわれていますが、背中付近は毛が無く黒くハゲたようになっています。

このミツバチはいったいどこに棲んでいるのかわからなかったのですが、自宅の庭の木でできた手すりの下部に直径1センチほどの穴が開いており、その中に入出入りするのを目撃しました。図鑑によると太い枝の枯れた部分や、屋根の垂木に穴をあけ巣をつくるようになっていました。ツツジや藤棚などの近くでホバリングしているハチは雄で、自分の縄張りを主張しているとのことでした。



いろんな花で吸蜜する クマバチ

参考文献

藤丸篤夫、2014. ハチハンドブック. 104pp. (株) 文一総合出版. 東京.

海野和男、2013. フィールドガイド身近な昆虫識別図鑑. 254pp. 誠文堂新光社. 東京.

7. 会よりの連絡事項

1) 水車は修理することで進んでいますので、今回は特別な連絡事項はありません。

8. 編集後記 (前田 歳朗 記)

今年は例年になく、梅雨入りが遅れています。遅さの記録を更新しそうです。もし梅雨が短ければ、水不足が気にかかります。昨年は、7月～9月に雨が降りませんでした。当然、須賀河内川の水量は極端に減りました。ため池・湿地帯の水位は下がり、湿地帯に踏み込むと異臭が漂い、さらに水路は干上がって水車の部分のみ水溜りになっていました。

“里山ビオトープ二俣瀬”は、水の調整が難しいビオトープです。大雨になれば水路が詰まり水があふれます。水漏れ箇所もありますので、渇水期には少ない水量がより少なくなります。私は心配性なので、日照りの際の動植物に与える影響が不安でした。湿地帯の水質は悪化したでしょうし、干上がった水路にいたカワニナも死滅した恐れがあります。

しかし今年のビオトープに異常はありませんでした。蛍は例年以上に発生したとのこと。湿地帯には例年同様、多くのタイコウチが発生し、植生の変化もありません。1年のみの渇水では、生態系に影響を与えることはなかった様です。ただし、毎年のように夏場の渇水が続き、ビオトープへの水の流入が少なくなれば生態系にも変化があるでしょう。

予報では、26日頃梅雨に入るそうです。しかし先週の予報では、20日頃梅雨に入るのではとっていました。梅雨の期間が短くなり渇水となるのか、梅雨明けも遅くなり冷夏となるのか。コメのためには日照りの方が良いのですが、ビオトープの生態系のためには冷夏の方がマシではないかと思うこの頃です。